

○議長（白石 幸喜君） 5番、濱砂恒光君の質問を許します。

○議員（5番 濱砂 恒光君） 議長。

○議長（白石 幸喜君） 5番、濱砂恒光君。

○議員（5番 濱砂 恒光君） 先に通告いたしました、西米良小中学校の教育の基本方針について、教育長にお伺いいたします。

昨年4月1日より、従来の村所小学校、西米良中学校を再編し、西米良小中学校として新たな環境のもとで、ふるさと教育をはじめ伝統文化の継承など、多種多様な取り組みがなされてきております。本村の児童生徒は、教育熱心な先生方のもと、恵まれた環境の中で勉学、スポーツなどに取り組み、成績等については県内でも上位の方であると伺っております。

この度、本村の教育長として就任されました野添教育長は、長きにわたり教育関係に奉職をされ、教育熱心な先生であり、また数々の要職を歴任されたと伺っております。教育長は以前、村所小学校の勤務をされており、村の教育行政についてはよくご存じのことであると思っております。関係者をはじめ、村民の方々も大いに期待をしていることと思われまます。

これまで培ってこられた豊富な経験を活かされて、本村の教育長として今後の教育行政にどのように取り組まれていくのかをお伺いいたしたいと思ひます。

○教育長（野添 和洋君） 議長。

○議長（白石 幸喜君） 教育長。

○教育長（野添 和洋君） 5番、濱砂恒光議員から質問のありました、西米良小中学校の教育の基本方針についてお答えいたします。

先ほど黒木敏浩議員の質問において、学校教育の大まかな基本的な考え方についてはお答えしましたので、来年度以降の取り組みの具体策について述べさせていただきます。

1月24日、西米良村が宮崎大学と連携協定を締結しました。協定項目は、教育・文化・医療・健康・福祉・産業・観光・環境・防災など、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的としております。そこで教育委員会では、西米良村の児童生徒と宮崎大学の学生が協働で行う探究学習と宮崎大学の学生を講師とする村営塾を進める計画を立てております。

まず協働での探究学習において、具体的には中学生が大学生と協働で地域の現状を調査し、地域課題の解決方法や地域資源の活用方法について自分たちの考えをまとめ、村長や村議会議員の皆様へ提言したり、西米良のためにできることを発信・実行したりする経験をさせるものであります。小学生はこれまで通り、体験的な活動を重視しながらも体験することで終わらず、地域のよさを村内外に広く情報発信する経験をさせていきたいと考えております。

児童生徒が本村の強みであるICTを効果的に活用しながら、西米良の地域課題や地域資源について、主体的に気づき考え実行する探究学習を実施することで、西米良村がこれまで推進してきた情報活用能力もさらに高めることが期待できます。

次に宮崎大学協力での村営塾において、具体的にはこれまで東京大学の学生がオンラインで行っていた塾を、宮崎大学の学生ができるだけ対面で行っていく塾の形式にし、双方向的な対話を可能にしていきたいと考えております。また、夏期講習では村出身の宮大生にも協力をもらい、講師を増員することで個別指導の充実を図って参ります。より身近な地元の宮崎大学の様々な学部の学生との探究学習や村営塾での交流を通して、西米良村の児童生徒にとっては将来の進路や職業感を形成するキャリア教育の充実にも繋がることを期待できます。

今後、宮崎大学との連携協定を追い風にして、西米良村の将来を守っていける人材を育成し、持続可能で幸せ度の高い西米良村にしていくための教育の推進に努めて参ります。

以上申し上げまして、瀨砂恒光議員の質問に対する答弁といたします。

○議員（5番 瀨砂 恒光君） 議長。

○議長（白石 幸喜君） 5番、瀨砂恒光君。

○議員（5番 瀨砂 恒光君） ありがとうございます。

西米良村がですね、宮崎大学と連携協定を締結されたことは画期的なことだと思っております。また、協定項目については教育はもちろんのこと、福祉・産業など幅広い分野で相互に協力して村の発展に寄与することを目的とされているようであります。

答弁で教育長の今後の元の教育行政に対する意見などを具体的に説明をいただきありがとうございました。

もう1点だけお伺いをいたしたいと思いますが、現在学校のあり方検討委員会を立ち上げ、検討がなされているようです。施設形態、施設等の或いは学校運営などについて、数多くの問題点があるように思われます。現時点での教育長としての考えをお聞かせ願いたいと思っております。

よろしく願いいたします。

○教育長（野添 和洋君） 議長。

○議長（白石 幸喜君） 教育長。

○教育長（野添 和洋君） 今年度から学校のあり方検討委員会が立ち上がりました。本年度が初年度となっています。

まずは学校の形態、例えば一貫校であるとか義務教育学校とかそういった形態ですね。そしてまた施設の形態、例えば学校をどこに建てるのか、そういったことについて今検討を進めているところであります。その他学校の運営の仕方、PTA組織などについてもですね、広く協議を進めて意見をいただいているところであります。

今後、児童生徒数は減少することが予想されて、来年度まではですね、何とか複式学級の解消というところまではできるんですけども、再来年度はどうしても複式学級が2組になるというような現状もございます。

また施設もですね、老朽化が進むことが予想されますので、現段階では校舎を改修または新設、そして施設一体型の小中一貫校または義務教育学校にしていく必要があるかなというふうに考えているところであります。これまでですね、私も校長の経験をして西小林小学校に在籍しているときには、宮崎大学のですね有識者の方も招いての協議を進めておりましたので、来年度は学校のあり方検討委員会に宮崎大学の小林教授をお招きして、アドバイザーとしてですね、いろいろと助言をいただきながらそして一番大事なことは、地域住民の皆様の意見をしっかりと受けとめて、理解と納得の上で進めて参りたいと考えているところであります。

○議員（5番 濱砂 恒光君） 議長。

○議長（白石 幸喜君） 5番、濱砂恒光君。

○議員（5番 濱砂 恒光君） いろんな問題が山積していると思われていますが、今後ぜひ前向きにとらえてですね、頑張ってくださいと思います。

最後に教育長は、西米良村は1つという、すばらしいネームを持っておられます。

今後とも課せられました問題解決をスムーズに取り組まれていかれて、ぜひ本村の教育に相応しい教育現場を作り上げていただきたいと思います。

ありがとうございました。質問を終わります。